

冴子おばあちゃんの話



「わたしそのとき初めてシュークリームを食べたの。今でもあの感動を忘れられないわよ」

母方の祖母、冴子おばあちゃんは達男おじいちゃんと隣町に住んでいて、時々うちへ遊びにくる。今日はおじいちゃんがカメラ同好会のイベントに出かけたのやって。

冴子おばあちゃんは、いつも短髪にジーンズ姿。前にスカートやワンピースは持ってないのん？ と聞いたら、「持っているわ」と返事があって、どうして着ないのかと聞いたら、「着たくないからよ」と機嫌が悪そうな顔をした。

「わたしのおじさんが、お土産に買ってきてくれたの。わたし、鼻の頭に生クリームを付けて、みんなに笑われたわ。あのころは本当に幸せだった」

冴子おばあちゃんは、子どものころの話わたしや弟の達也にするのが趣味や。よく話してくれて、最後は「あのころは本当に幸せだった」で締めくくる。

東京生まれの冴子おばあちゃんは、京都生まれの達男おじいちゃんが、東京の大学に行っているところに知り合って結婚し、一緒に京都にやってきたのや。

それから、おばさんの理子さんを産んで、それから八年後にわたしのかあさん、理桜を産んだ。

わたしの家は共働きだけど冴子おばあちゃんは、理子おばさんが生まれたときに仕事を辞めた。

冴子おばあちゃんは京都暮らしのほうがいいの、東京の言葉話す。というか、京都の言葉話さない。「シュークリームなんか、スーパーでなんぼでも売って